

# 数值計算法

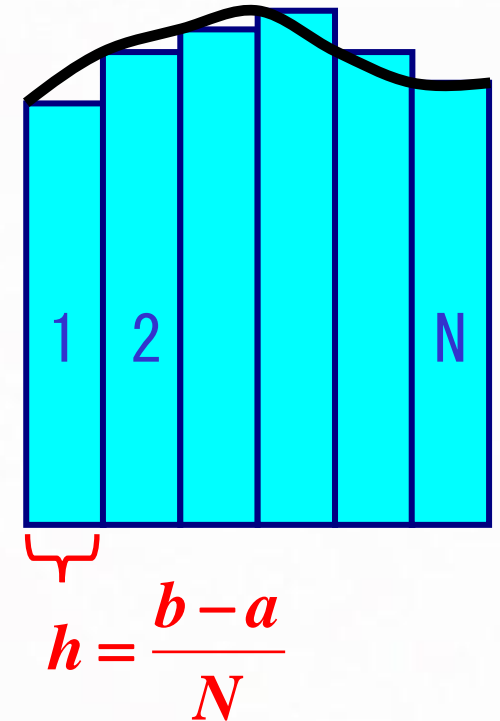
## 第八回 数值積分法の基礎

若狭 智嗣

粒子物理学講座

# 数値積分法1－区分別積法－

- ・ 区分別積法の考え方
  - － 積分＝面積を求める
  - － 積分領域を  $N$  個の領域に分割
  - － 各領域は長方形で近似



- ・ 区分別積法の公式

$$I = \int_a^b f(x)dx = \sum_{i=1}^N f(a+ih)h \quad h = \frac{b-a}{N}$$

# 区分求積法の精度

- N個の長方形のうち最初の長方形を考える

- 区分求積法の積分値  $S = f(a+h)h$
- $x = a$  の周りのTaylor展開で置き換えて

$$S = f(a+h)h = [f(a) + hf'(a) + O(h^2)]h \\ = hf(a) + h^2 f'(a) + O(h^3)$$

- $f(x)$  の不定積分を  $F(x)$  とおく ( $F'(x) = f(x)$ )

- 真の積分値  $I = \int_a^{a+h} f(x)dx = F(a+h) - F(a)$
- $x = a$  の周りのTaylor展開で置き換えて

$$I = F(a+h) - F(a) = hF'(a) + \frac{h^2}{2} F''(a) + O(h^3) \\ = hf(a) + \frac{h^2}{2} f'(a) + O(h^3)$$

$\frac{h^2}{2} f'(a)$   
の差

# 区分求積法の判定法

## 区分求積法の誤差

- 各区分に関して

$$S - I \approx \frac{h^2}{2} f'(a)$$

- 全区間(N個)に関して  $\frac{h^2}{2} f' \times \underbrace{\frac{b-a}{h}}_N = \frac{h}{2} (b-a) f'$

## 判定法

- 刻み数  $N$  を倍にする ( $h$  を半分にする)  $\rightarrow$  誤差は約1/2

- (正解が分からない) 実際には?

$I_N - I_{N/2}$  を計算して、 $N$  を倍にした時に約1/2になる事を確認

# 演習

- ・ 次の定積分

$$I = \int_1^2 \frac{1}{x^2} dx = \frac{1}{2}$$

を区分解法により求めよ。

- ・ 分割数Nを10, 100, 1000と順次増やして、厳密解との差がどうなるか確認せよ。
- ・ 区分解法が正しく機能する最大のNはどの程度か？

# プログラム(kubun)の説明

(/home/teacher/z6wt01 in/SAMPLE/kubun. f)

```
do i=1, 7
  n=10**i
  h=1.0e0/real(n)
  s=0.0e0
  do j=1, n
    s = s + 1.0e00/(1.0e+00+real(j)*h)**2
  end do
  write(*, '(i8, 2f11.7)') n, s*h, s*h-5.0e-1
end do
```

分割数が  
10<sup>1</sup>から10<sup>7</sup>  
の場合を計算

$$h = \frac{2-1}{N} = \frac{1}{N}$$

$$I = h \sum_{j=1}^N f(a + jh) = h \sum_{j=1}^N \frac{1}{(1 + jh)^2}$$

分割数、数値計算の値、厳密解との差

# 区分数依存性

## 結果

	区分数	計算解	厳密解との差
-	10	0.4639551	-0.0360449
-	100	0.4962645	-0.0037355
-	1000	0.4996252	-0.0003748
-	10000	0.4999619	-0.0000381
-	100000	0.4999943	-0.0000057
-	1000000	0.4997711	-0.0002289
-	10000000	0.5491630	0.0491630

Nを10倍にしても、  
差が1/10になっていない  
(誤差の蓄積のため)

数値微分の場合と同様に、数値積分の場合もむやみと  
分割数を大きくしても精度は向上しない  
(誤差の累積によりかえって精度が悪くなる場合がある)

# 演習 その2

- ・ 次の定積分

$$I = \int_1^2 \frac{1}{x^2} dx = \frac{1}{2}$$

を**倍精度**の区分求積法により求めよ。

- ・ 結果を**単精度**の場合と比較せよ

`real x` ! `x` は単精度の実数  
`real*8 y` ! `y` は倍精度の実数

# 演習 その3

- ・ 次の定積分

$$I = \int_{-1}^1 \frac{2}{1+x^2} dx = \pi = 3.14159265\dots$$

を**単精度**と**倍精度**の区分求積法により求めよ。

- ・ 厳密解にもっとも近い値となる分割数  $N$  は、**単精度**の場合と**倍精度**の場合で各々いくらか？

`real x` !  $x$  は単精度の実数  
`real*8 y` !  $y$  は倍精度の実数

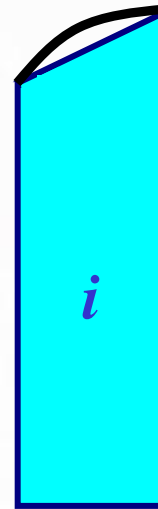
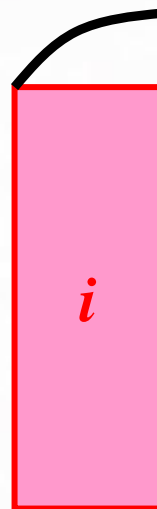
# 数値積分法2－台形法－

## ・ 台形法の考え方

- 積分＝面積を求める
- 積分領域を  $N$  個の領域に分割
- 各領域は台形で近似

区分求積法

台形法



## ・ 台形法の公式

$$I = \int_a^b f(x)dx \approx \sum_{i=0}^{N-1} \frac{f(a+ih) + f(a+(i+1)h)}{2} h$$
$$= \frac{f(a) + f(b)}{2} h + \sum_{i=1}^{N-1} f(a+ih)h \quad h = \frac{b-a}{N}$$

$N$  には無いことに注意!!

# 台形法の精度

- N個の台形のうち最初の長方形を考える

- 台形法の積分値  $S = \frac{h}{2}[f(a) + f(a+h)]$
- $x=a$ の周りのTaylor展開で置き換えて

$$S = \frac{h}{2}[f(a) + f(a+h)] = \frac{h}{2} \left[ f(a) + f(a) + hf'(a) + \frac{h^2}{2} f''(a) + O(h^3) \right]$$
$$= hf(a) + \frac{h^2}{2} f'(a) + \frac{h^3}{4} f''(a) + O(h^4)$$

- $f(x)$ の不定積分を $F(x)$ とおく( $F'(x)=f(x)$ )

- 真の積分値  $I = \int_a^{a+h} f(x)dx = F(a+h) - F(a)$
- $x=a$ の周りのTaylor展開で置き換えて

$$I = F(a+h) - F(a) = hF'(a) + \frac{h^2}{2} F''(a) + \frac{h^3}{6} F'''(a) + O(h^4)$$
$$= hf(a) + \frac{h^2}{2} f'(a) + \frac{h^3}{6} f''(a) + O(h^4)$$

$\frac{h^3}{12} f''(a)$   
の差

# 台形法の判定法

## 台形法の誤差

- 各区分に関して

$$S - I \approx \frac{h^3}{12} f''(a)$$

- 全区間(N個)に関して

$$\frac{h^3}{12} f'' \times \underbrace{\frac{b-a}{h}}_N = \frac{h^2}{12} (b-a) f''$$

## 判定法

- 刻み数  $N$  を倍にする ( $h$  を半分にする) → 誤差は約1/4

- (正解が分からない) 実際には?

$I_N - I_{N/2}$  を計算して、 $N$  を倍にした時に約1/4になる事を確認

# 数値積分法3 - Simpson法 -

- 台形法の精度

$$S_N - I \approx \frac{h^2}{12} (b-a) f''$$

$$S_{N/2} - I \approx \frac{(2h)^2}{12} (b-a) f''$$

$$(S_N - I) - \frac{1}{4}(S_{N/2} - I) \approx 0$$

より高精度の式

$$I \approx \frac{S_N - S_{N/2}/4}{1 - 1/4}$$

Simpson法

- Simpson法の公式

$$I = \int_a^b f(x) dx$$

$$h = \frac{b-a}{N}$$

$$\approx \frac{h}{3} \left[ f(a) + f(b) + 4 \sum_{i=1}^{N/2} f(a + (2i-1)h) + 2 \sum_{i=1}^{N/2-1} f(a + 2ih) \right]$$

# 各数値積分法のまとめ

- ・ 積分区間を分割して、各区間の面積を求めるという点では同じ
- ・ 区分求積法
  - ある1点を通る定数で被積分関数を近似
  - 各区間は長方形
  - 誤差は  $h$  程度
- ・ 台形法
  - ある2点を通る直線で被積分関数を近似
  - 各区間は台形
  - 誤差は  $h^2$  程度
- ・ Simpson法
  - ある3点を通る2次曲線で被積分関数を近似
  - 各区間は山(谷)形
  - 誤差は  $h^4$  程度

# 演習

- ・ 積分

$$I = \int_0^1 e^x dx = e - 1 = 1.7182818 \dots$$

## を考える

- 台形法およびSimpson法により数値積分を行え
- 刻み数Nを変えて計算し、以下の事を確認せよ
  - ・ 収束の度合い(厳密解との差) →
  - ・ 各方法が正常に機能しているか

Gnuplotを用いて  
グラフを描け

- ・ 積分

$$I = \int_{-1}^1 \frac{2}{1+x^2} dx = \pi = 3.14159265 \dots$$

に対して、上記と同じことを行え

# プログラム(integral)の説明

(/home/teacher/z6wt01 in/SAMPLE/integral.f)

厳密解

$e-1$

c begin:

```
exact = exp(1.0)-1
```

```
do m=0,6
```

```
  n=2**m
```

! 刻み数

```
  h=1.0/n
```

! 刻み幅

c 台形法

```
integral=y(0.0)+y(1.0) ! 積分端での値
```

```
do i=1,n-1
```

```
  x = h*i
```

```
  integral=integral+2.0*y(x)
```

```
end do
```

```
trapezoid=integral*h/2.0 ! 台形法の解
```

分割数が  
 $2^0$ から $2^6$   
の場合を計算

台形法の公式 
$$S_N = \frac{h}{2} \left[ f(a) + f(b) + \sum_{i=1}^{N-1} 2f(a+ih) \right]$$

# プログラム(integral)の説明(続き)

(/home/teacher/z6wt01in/SAMPLE/integral.f)

c Simpson 法

```
integral=y(0.0)+y(1.0) ! 積分端での値
```

```
do i=1,n/2
```

```
  x = h*(2*i-1)
```

```
  integral=integral+4.0*y(x)
```

```
end do
```

```
do i=1,n/2-1
```

```
  x = h*(2*i)
```

```
  integral=integral+2.0*y(x)
```

```
end do
```

```
simpson=integral*h/3.0 ! Simpson 法の解
```

c 数値積分の結果と解析解の差の出力

Simpson法の公式

$$S_N = \frac{h}{3} \left[ f(a) + f(b) + 4 \sum_{i=1}^{N/2} f(a + (2i-1)h) + 2 \sum_{i=1}^{N/2-1} f(a + 2ih) \right]$$

# プログラム(integral)の説明(続き)

(/home/teacher/z6wt01 in/SAMPLE/integral.f)

```
c  
c 被積分関数の定義
```

```
c  
  real function y(x)  
  implicit none
```

被積分関数を  
単精度実数の  
関数で定義

```
c input:  
  real x
```

```
c begin:  
  y = exp(x)  
  return  
  end
```

$$I = \int_0^1 e^x dx$$

# 結果の分割数依存性

- ・ 予想

- 台形法 分割数を倍 ( $h$ を $1/2$ )にすれば厳密解との差(誤差)は $1/4$
- Simpson法 分割数を倍 ( $h$ を $1/2$ )にすれば厳密解との差(誤差)は $1/16$

- ・ 結果

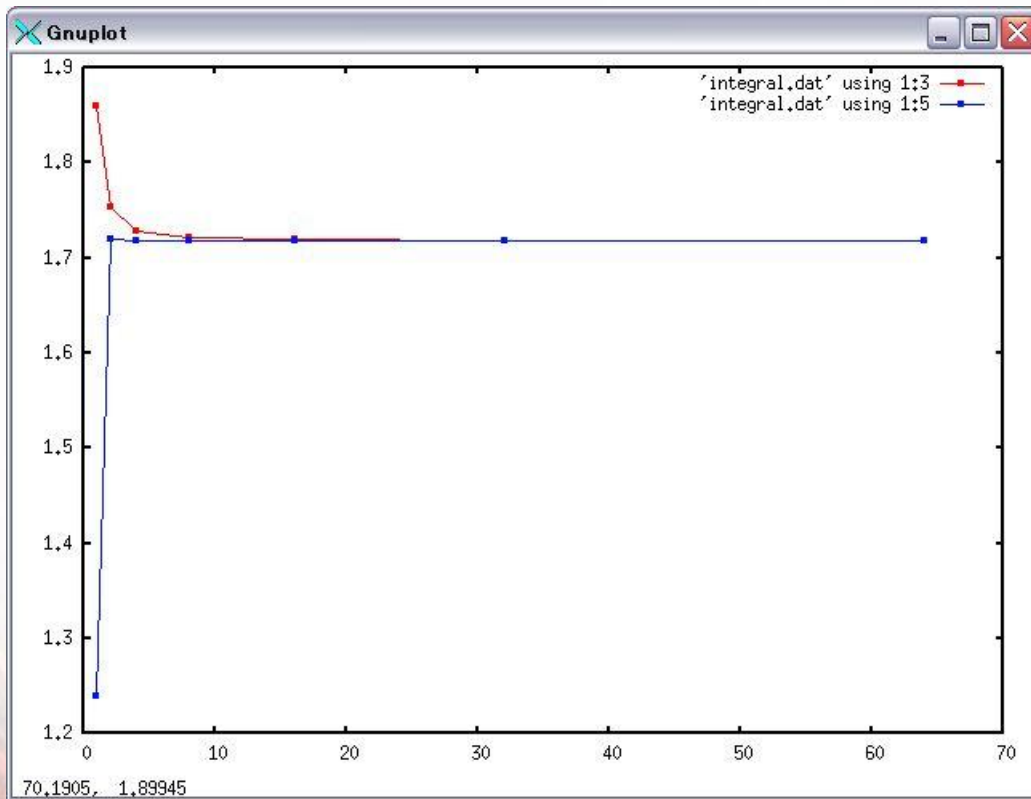
$N$	$h$	台形法の値と差		Simpson法の値と差	
-	1 1.00000	1.8591409	0.1408591	1.2394272	-0.4788545
-	2 0.50000	1.7539310	0.0356493	1.7188611	0.0005794
-	4 0.25000	1.7272218	0.0089401	1.7183189	0.0000372
-	8 0.12500	1.7205185	0.0022367	1.7182842	0.0000025
-	16 0.06250	1.7188411	0.0005593	<u>1.7182817</u>	<u>0.0000000</u>
-	32 0.03125	1.7184218	0.0001401	1.7182817	0.0000000
-	64 0.01562	1.7183169	0.0000352	1.7182817	0.0000000

前の値の  
 $1/4$

前の値の  
 $1/16$

# gnuplotを使った視覚化

- ・ 結果をファイルに書き出す
  - `% integral > integral.dat`
- ・ gnuplotを起動して、絵を描かせる
  - `plot 'integral.dat' using 1:3 with linespoints 1 5,'integral.dat' using 1:5 with linespoints 3 5`



赤が台形法  
青がSimpson法

# 不連続点がある場合の数値積分

- ・ 物理学に現れる被積分関数
  - 発散点や不連続点がある場合がある
  - 発散点があっても、積分はある有限な物理的に意味のある場合がある  
→ 発散点や不連続点のある関数の精度のよい数値積分は重要
- ・ 発散点や不連続点のある場合の処方箋
  - 被積分関数  $f(x)$  の不連続点や、その高階の導関数が不連続になる点  
が予め知られている場合は、その点を  $c$  として、積分区間を、

$$\int_a^b f(x)dx = \int_a^c f(x)dx + \int_c^b f(x)dx$$

と分割すればよい

# 不連続点がある場合の数値積分の例

- 例題

2階導関数が  
 $x=1/3$ で不連続

$$f(x) = \begin{cases} 1 & 0 \leq x \leq \frac{1}{3} \\ 1 - \frac{9}{4} \left(x - \frac{1}{3}\right)^2 & \frac{1}{3} \leq x \leq 1 \end{cases}$$

$$I = \int_0^1 f(x) dx = \frac{7}{9}$$

- 積分区間を分割しない場合

$N$	台形法 差	Simpson法 差
- 2	-0.0590278	0.0138889
- 4	-0.0160590	-0.0017361
- 8	-0.0038520	0.0002170
- 16	-0.0009834	-0.0000271
- 32	-0.0002433	0.0000034

前の値の  
約1/4  
→正常

前の値の  
約1/8  
→異常

# 不連続点がある場合の数値積分の例

## 例題

2階導関数が  
x=1/3で不連続

$$f(x) = \begin{cases} 1 & 0 \leq x \leq \frac{1}{3} \\ 1 - \frac{9}{4} \left(x - \frac{1}{3}\right)^2 & \frac{1}{3} \leq x \leq 1 \end{cases}$$

$$I = \int_0^1 f(x) dx = \frac{7}{9}$$

## 積分区間を分割した場合としない場合の比較

(分割した場合は、[0,1/3]と[1/3,1]を各々(N-1)で分割)

N	台形法の差		Simpson法の差	
	分割なし	分割あり	分割なし	分割あり
- 2	-0.0590278	-0.1111111	0.0138889	-0.3333333
- 4	-0.0160590	-0.0277777	-0.0017361	<u>0.0000000</u>
- 8	-0.0038520	-0.0069444	0.0002170	0.0000000
- 16	-0.0009834	-0.0017362	-0.0000271	0.0000000
- 32	-0.0002433	-0.0004340	0.0000034	0.0000000

収束

前の値の約1/4  
→正常

# 演習（不連続点のある場合の数値積分）

- ・ 次の積分

$$f(x) = \begin{cases} 1 & 0 \leq x \leq \frac{1}{3} \\ 1 - \frac{9}{4} \left(x - \frac{1}{3}\right)^2 & \frac{1}{3} \leq x \leq 1 \end{cases}$$

を台形法およびSimpson法により数値積分を行え。

- ・ 不連続点 $x=1/3$ で積分区間を分割した場合としない場合両方に対して計算を行い、講義ノート94ページの表10. 1を確認せよ。

# プログラム例 (被積分関数の表し方)

```
real function y(x)
implicit none
c input:
  real x
c begin:
  if (x.lt.1.0/3.0) then
    y = 1.0
  else
    y = 1.0-9.0/4.0*(x-1.0/3.0)**2
  endif
  return
end
```

$$f(x) = \begin{cases} 1 & 0 \leq x \leq \frac{1}{3} \\ 1 - \frac{9}{4} \left(x - \frac{1}{3}\right)^2 & \frac{1}{3} \leq x \leq 1 \end{cases}$$

if文を使って  
定義域毎に  
関数を定義する

# プログラム例

```
real A,B
parameter(A=0.0,B=1.0)           ! 積分範囲 [a,b]
real C                           ! 分割点
parameter(C=1.0/3.0)
```

----- 途中省略 -----

```
do j=1,5
```

```
  n = 2**j
```

[A,B]を  $n = 2^j$  で分割

```
  h = (B-A)/n
```

```
  n1 = 2**(j-1)
```

[A,C]と[C,B]を  $n1 = 2^{j-1}$  で分割

```
  h1 = (C-A)/n1
```

→[A,B]は  $n = 2n1 = 2^j$  で分割

```
  h2 = (B-C)/n1
```

```
c 台形法 (分割なし)
```

```
  sum1 = 0.0
```

```
  do i=1,n-1
```

```
    sum1 =sum1 + y(A+i*h)
```

```
  end do
```

```
  trapezoid = h/2.0*(y(A)+y(B)+2.0*sum1)
```

# プログラム例(つづき)

c 台形法 (分割あり)

```
sum1 = 0.0
```

```
sum2 = 0.0
```

```
do i=1,n1-1
```

```
sum1 =sum1 + y(A+i*h1)
```

```
sum2 =sum2 + y(C+i*h2)
```

```
end do
```

```
trapezoid2 = h1/2.0*(y(A)+y(C)+2.0*sum1)
```

&

```
+h2/2.0*(y(C)+y(B)+2.0*sum2)
```

区間[C,B]に対して  
台形法で計算

区間[A,C]に対して  
台形法で計算